

インターネットへの「どこでもドア」

# iモード サービスの 実力

広末涼子を発表記者会見に呼んでしまうなど、NTTドコモが相当の力を入れ、文字通り鳴り物入りで提供を開始したiモードの本サービスが始まった。対応端末に設けられた「i」のボタンは生活を豊かにしてくれるのだろうか。今回は、その徹底検証だ。 山田祥平

# iMODE

## 最新携帯インターネットツール「iモード」登場!

今や4000万人ともいわれる携帯電話人口。iモードサービスは、その携帯電話そのものをインターネット端末にしてしまう。ゼロ成長が懸念されているパソコンをインターネットにつなぐための方便として携帯電話をアピールするよりも、ずっと積極的で、かつ、現実的なアプローチだ。

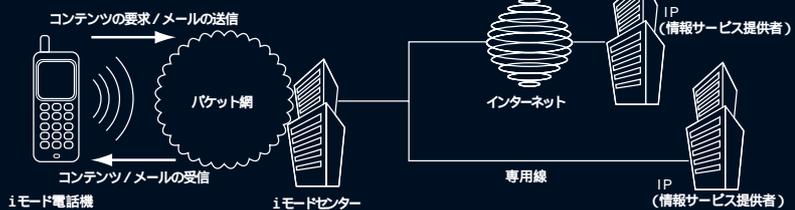
テレビCMでもすでに頻繁に流れているiモードサービスだが、これを利用するためには、専用端末を入手して契約し、基本使用料と付加使用料として、合計300円を余分に支払うだけだ。専用端末はNTTドコモの契約者であれば、機種変更で購入できる(新規申し込みより約1万円安)。データ転送はパケット通信で、iモードセンター経由で行われ(図)、送受信したデータ量に応じて課金される。このため、端末操作に手間

取っても、接続時間を気にする必要はない。NTTドコモではこのサービスを、すでにインターネットを利用しているユーザーのサブ端末というよりも、新たな層を掘り起こす起爆剤として考えているようだ。

だが、本誌読者諸氏のようなインターネットパワーユーザーにとっても、実に気になる存在である。うまくすれば、文字通りインターネットを持ち歩き、身にまとうことができるのだ。



ネットワーク構成図



# iモードのある生活

携帯電話がインターネット世界への「どこでもドア」として機能する。

今までとはちょっと違ったTPOでインターネットが利用できると生活はどのように変わっていくのだろうか。

## いつでもどこでも オンラインサービス利用

iモードサービスは、サイト接続サービス、メッセージサービス、メールサービスという3種類に分類できる。要するに、WWWとメールが携帯電話単体で利用できるようになると考えれば、サービス圏内にいる場合はサービスからの「プッシュ」を受信できるため、メールは送られた直後に着信できるし、メッセージサービスとして提供されるニュース速報や株価の動きなど、本来の意味での「プッシュ型サービス」を受けることができる。

iモードを使ってユーザーに情報を提供するの、一般の企業だ。NTTドコモは情報を提供するのではなく、あくまでもキャリアあるい

はプロバイダーとして機能する。

サービス開始にともない、銀行や旅行代理店、チケット予約などのサービスを提供する企業が一斉に名乗りを上げている。もちろん、新聞社や通信社などのマスコミは最新ニュースを提供するサイトを作っている。

iモード端末はHTMLのサブセットを解釈するブラウザを搭載しているが、小さな液晶画面で、既存のサイトをブラウズするにはちょっと不便だし、ブラウザそのものも機能不足だ。したがって、iモード端末をターゲットにした情報提供のためには、専用のページを作る必要がある。それを実現したサイトがすなわ

ち対応サイトとなるわけだ。

インターネットの利用者であれば、その日常生活の中で「こんなときにWWWが使えたら」と思う場面にたびたび出くわしているはずだ。iモード端末があれば、それらのうちの何割かは解決するかもしれない。

100gに満たない端末さ持ち歩けば、それだけで音声通話はもちろん、いつでもどこでもインターネットとつながりっぱなしの状態を維持できる。しかも、情報を取りに行けるだけでなく、向こうから情報がやってくるのだ。これは、ひょっとしたら、ちょっとしたカルチャーショックを起こすかもしれない。

## iモードで変わる ライフスタイル

今まで、京セラのデータスコープなど、電話とインターネット端末を兼用できる端末が存在しなかったわけではない。が、iモード端末はインターネットに接続したいときに自由に接続できるうえ、メールやメッセージなどをインターネット側から端末に向けて直接配信する点で画期的といえる。電話は向こうからかかってくるのに、メールは取りに行かなければ読めないというのは、本来はちょっとおかしい。iモード端末は、その矛盾を解決してくれる。

また、サービスの一覧表(表3)を見ればわかるように、iモード対応サイトの分野は多岐にわたる。そのほとんどは、パソコンで利用するWWWからも利用できるが、それらをパソコンを使わなくても利用できるというムーブメントが本格的に起こり始めれば、既存のインターネットユーザー層はさらに広範なものになっていくだろう。

ちょうど、WWWで各マスコミがニュースを流すようになって、紙の新聞の購読をやめるようなユーザーが出てきたように、メディアがライフスタイルを変えようというのはいくらも話ではない。各サービスの内容を見ていると、これだけでいいのならパソコンなどいらないと判断するユーザー層もいるかもしれない。もちろん、その逆もある。このサービスでインターネ

ットの実用性を知り、パソコンの世界に入ってくるユーザー層もいるだろう。

重要なのは、このサービスがオープンなものであり、閉じた空間にユーザーを閉じこめるものではないという点だ。

ただし、無料の情報提供という性格を持つWWWサイトに大きな期待をすることはできな

い。きっと、ある程度の限界があるだろう。なぜなら、こうしたサイトの維持費は、リンクの設定された広告バナーなどをきちんと表示できてこそ得られるわけで、表示面積に限界があるiモード端末ではそれが難しいからだ。

それでも、今まではインターネットと縁のなかったような層が多くやってくるに違いない。

表1 iモード利用料金

1.基本料金	300円
(内訳)基本使用料(パケットライトプラン)	200円
付加機能使用料(iモード)	100円
2.パケット通信料	表2参照
1パケット(=128バイト)当たり0.3円で1か月の総パケット数から算出	
3.iモード情報料	表3参照
iモード有料サイトを利用した場合のみ月額固定料金	

表2 パケット通信料の概算

サイト名	概算通信料
モバイルバンキング残高照会	約10~20円
モバイルバンキング口座振替	約20~40円
天気予報	約20~30円
エアライン空席照会	約20~30円
レストランガイド	約20~30円
タウンページ	約30~40円
メールの送信(50字)	約2円
メールの受信(50字)	約1円
センター問い合わせ(センター保管がない場合)	約1~2円

\*あくまでも概算のため、これと同じとは限らない。

表3 iモードサービス一覧

分類	情報サービス内容	料金
取引系	モバイルバンキング	
	モバイルトレード	
	クレジットカード請求照会	
	生命保険モバイルATM	
	トラベル予約 エアライン情報	
	ホテル予約	
	格安ツアー情報	
	コンサートチケット予約	
	書籍購入	
	カラオケ	
エンターテインメント系	FMオンエア情報	
	ネットワークゲーム	300円
	占い	170円*
データベース系	レストランガイド	
	モバイルタウンページ(電話帳検索)	
	モバイルレシビ	
	辞書検索	50円*
その他(生活情報系)	乗り換え案内	
	賃貸物件	
	ニュース	100円*
	天気予報	100円*
	株価情報	
	タウン情報	
	映画上映館案内	
	iモード便利ダイヤル	
	iモード便利メモ	
	ドコモ情報ダイヤル	

\*一部のコンテンツのみ有料。空欄は無料(1999.3.1現在)

# ここまで進化したインターネット対応携帯電話

従来、ウェブを見られる電話機は通常の携帯電話よりも一回り大きいPDA一体型だった。

それが、iモード対応の携帯電話機は今まで使っていたデジタル携帯電話機と見た目はまったく同じだ。

## iモード対応端末 はこれだ!

2月22日のiモードサービス開始に合わせて発売されたiモード対応電話機は、デジタル800MHz用のデジタル・ムーバF501i HYPER(富士通製)のみ。オーソドックスなトウインクルブラック色を採用しているため男女を問わず、ビジネスからコンシューマーまで幅広く利用できる。反面、シンプルすぎるという声も上がっているが、前面ボディーにアクリル素材を

使用し、オレンジ色のバックライトが前面ボディーから透けて発光するため、カタログで見るよりもその存在感がアピールされている。3月24日には、三菱電機製D501i HYPERおよび日本電気製N501i HYPERの2台が同時に発売され、今後さらに松下電器産業製のP501i HYPERの発売も予定されている。これから、発売されるデジタル携帯電話はすべてiモード

端末になるとも言われていることから、液晶ディスプレイサイズは保持しながらも、さらに小型化し、使い勝手が向上した製品も続々出てくるに違いない。ユーザーにとっては買い換え時期が難しいだろう。

現在は、NTTドコモの直営ショップでしか扱っていないが、量販店で販売されるのも時間の問題かもしれない。

### デジタル・ムーバF501i HYPER

発売元：NTT移動通信網株式会社

問い合わせ：関東甲信越、関西、中国地域 0120-501-360  
そのほかの地域 0120-177-360

電話受付は9:00～17:00(土日祝除く/関東甲信越は日祝除く)

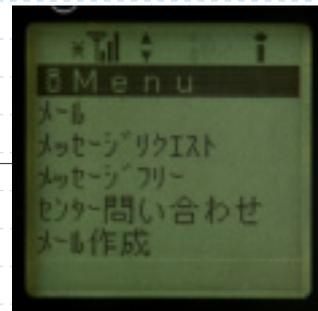
価格：35,900円

<http://www.nttdocomo.co.jp/>

[原寸大]



各キーが立体的な作りのため、操作ミスが起こりにくい。側面にはイヤホン用のインターフェイスのみ。



横8文字、縦6行の最大48文字まで表示ができる大型ディスプレイを採用。暗い場所でキーを操作すると、オレンジ色のバックライトが自動的に点灯し、明るいところでは自動的に消灯する省電力モードが搭載されている。



iモード用のボタンを中央に配し、ナビ・ファイブキーで画面上的選択肢を簡単に選択できる。よく見るウェブサイトや「マイメニュー」に登録しておけば、パスワード入力のないサービスなら、ナビ・ファイブキーで目的のウェブサイトを見られるのは便利だ。

右は三菱電機製のD501i HYPER(39,800円)かばんの中でもキーを守るフリップを装備。画面には全角48文字を表示できる。左は日本電気製のN501i HYPER(42,800円)全角横10文字×縦10行の計100文字を表示できる、大きな液晶を使った折畳み式携帯電話。

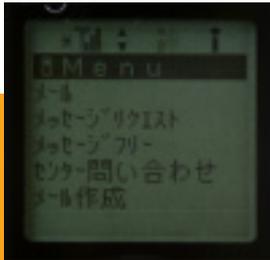


## iモードキーで 接続も簡単!

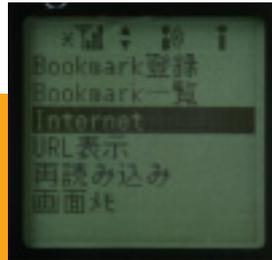
iモード端末には、インターネットの頭文字である「i」を黄色いロゴにしたiモードキーが用意されている(左ページのボタン拡大写真を参照)。このボタンを押すことで、インターネッ

トへの入り口が開く。接続そのものはユーザーの意思で開始できるが、切断を気にする必要はない。転送したデータの量に応じて課金されるため、時間はコストとは無関係だからだ。

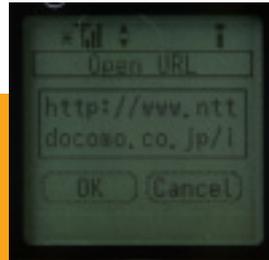
もちろん、従来のデジタル・ムーバに装備されていたデータ通信用の端子も用意されているので、パソコンを使ったインターネット接続にも使える。



iモードキーを押した画面。「Menu」を指定した状態で、もう一度iモードキーを押すとセンターに接続される。



Menu画面でメニューキーを押したときの画面。WWWを見るには「Internet」を指定して、iモードキーを押す。



Open URL画面が表示されるので、ここでURLを入力。実線が指定項目で、URL入力部が実線のときにiモードキーを押すと文字入力画面に切り替わる。URLを入れて再びiモードキーを押し、Open URL画面に戻る。「OK」でiモードキーを押す。



ここではNTTドコモのiモードサンプルページに接続した。右上の「i」のアイコンの点滅はiモードセンターに接続中を表す。

## ほかの携帯電話とは一味違う「501i」シリーズ

iモード端末がほかの携帯電話とどう違うかは、購入する際に気になるところだろう。iモードサービスが利用できる以前に普通の電話機としては十分な機能なのか、また小型化が進む携帯電話の新機種と比べて、大きさはどのくらい違うのか、さらに電池のもちや着信音の種類のほか、メール対応で問題になる液晶画面の大きさ、メールの保存などといった点に関して、右表にまとめてみた。

前出のデジタル・ムーバF501iHYPERと比較したのは、同じNTTドコモから発売されている、10円メール対応のPDA一体型携帯電話「デジタル・ムーバSH601em」と、他社製品ではインターネットメールの送受信ができるSkyWalkerと情報サービスSkyWebに対応したJ-PHONEの「J-SH01」。なお、基本コンセプトが異なる部分もあり、一概にこの表が製品の性能をそのまま表しているわけではない。

操作性やメールの使い勝手と言えば、SH601emが優位だが、そのぶん本体がやや大きめだ。F501iHYPERとJ-SH01は画面の表示文字数が同じ。メールの保存件数を見るとJ-SH01のほうが多いが、送受信メールの文字数や、返信、メール定型文などのメール作成機能ではF501iHYPERのほうが簡単に利用できる。ただ、同じキャリアのデジタル携帯電話同

メール対応携帯電話比較表

型番	F501iHYPER	SH601em	J-SH01
本体写真			
価格(本体+標準セット)	35,900円	43,100円	43,000円
サイズ(H×W×D)(mm)	135×43×19	120×58×21	127×41×21.5
重量(g)	約92	約125	約85
連続通話時間(分)	約120	約100	約115
連続待受時間(時間)	約200	約180	約260
ディスプレイ表示	最大48文字 横8文字×縦6行	最大104/240文字(標準/縮小) 160×200ドットの大型液晶	最大48文字 横8文字×縦6行
着信音選択	3種類+12曲+ ユーザー設定3種類	10種類+10曲	20種類+10曲
リダイヤル発信	10	12	10
不在着信通知/着信履歴(件)	10	12	20
漢字メモリダイヤル(件)	300	500(1件につき電話番号3つと 2つのメールアドレスを登録可)	300
メールアドレス登録(件)	300		300
受信文字数	1件につき全角250文字	1件につき全角1万文字	1件につき全角192文字
送信文字数	1件につき全角250文字	1件につき全角8000文字	1件につき全角64文字
受信メール保存(件)	30	送受信合わせて192KB	100*
送信メール保存(件)	10	または1000件(10円メール)	50*
メール返信・転送機能			返信のみ*
ユーザー定型文(件)	10	50+30(自作)	送信箱10件で代用可*
ショートメール/スカイメール	送信のみ		
その他の特徴	光センサー内蔵バックライト ナビ・ファイブキー 音声ラベル(約2秒/5件)	ELバックライト シャトルボタン 手書きメモ 音声メモ(約15秒/4件) 10円メール対応	ELバックライト マルチキーガイド スカイウェブ対応 音声メモ(約12秒/3件)

\*メモリダイヤルとメールアドレスは同時に登録できる  
\*SkyWalkerのE-mailサービスの場合

士で利用するショートメール(NTTドコモ)とスカイメール(J-PHONE)は、J-SH01が送受信可能なのに対し、F501iHYPERは送信の

みと、今までNTTドコモ端末でショートメールを利用してユーザーには多少不満が残るかもしれない。

# 役立つ情報満載のサイト接続 / メッセージサービス

iモードに最適化して作られたバラエティーに富んだサイトがある。

広告収入が期待できないだけに有料サイトも目立つが、それだけに、情報サービスの質が問われる。

生活情報系

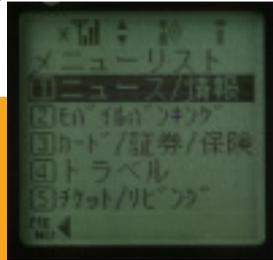
## 最新情報をどこでも ゲットできる

ニュース]

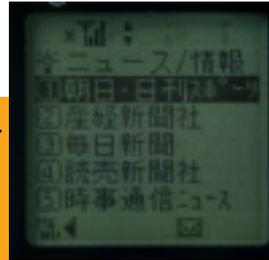
天気予報  
賃貸物件情報  
タウン情報など

最新のニュースを入手するために、各新聞社、通信社が提供するサイトに接続する。登録しておくことで、最新のニュースが発生した時点で、自動的にiモード対応電話機で受信できるメッセージサービスも受けられる。

また、NTTドコモが独自に提供する、いざというときに役立つ便利ダイヤルや情報ダイヤルなども用意されている。



Menu画面の「メニューリスト」を選ぶと、iモード用のサイトが、あらかじめ分類されている。ここで、「ニュース/情報」を選んでiモードキーを押す。



iモードサービスに協賛している企業のニュース、気象情報、株価情報サイトが登録されているので、好みのものを選ぶ。例では、「朝日・日刊スポーツ」を選択した。



ニュースが表示される。ここまでの操作では特にURLを指定しなくても、ナビ・フアイキーだけでサイトが見られる。

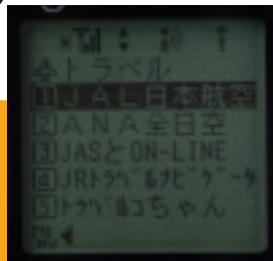
取引系

## いつでも確認や 申し込みができる

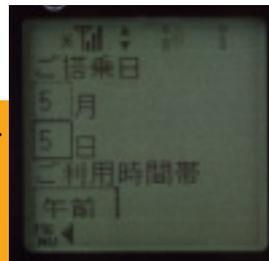
トラベル予約]

モバイルバンキング  
モバイルトレード  
コンサートチケット予約など

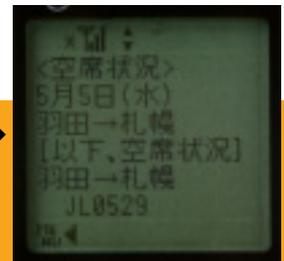
銀行口座の残高照会や振込手続きができるほか、株式の売買の指示、さらにはホテルや飛行機の予約、空席情報、コンサートチケット予約など、さまざまなサービスが提供されている。忙しくて窓口に向く時間がない人には重宝するサービスであり、ちょっとした空き時間やいつでも気が向いたときに手続きできる点がとにかく便利だ。



前出のメニューリストから「トラベル」を選ぶと、各航空会社のエアライン情報やホテル予約情報などのサイトが表示される。



「JAL日本航空」から「国内線予約・案内」を選択。「空席・スケジュール」で、搭乗日や利用時間帯、発着空港名を入力する。空港名は選択式。



結果、空席情報が表示される。もちろん、表示するだけでなく、チケットの予約も同様の手順でできる。

データベース系

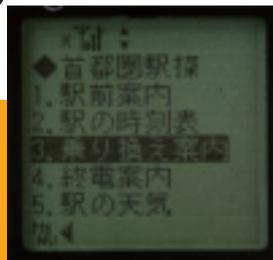
## 街中でPCを出さずに チェックできる

乗り換え案内]

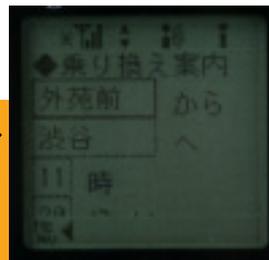
レストランガイド  
モバイルタウンページ  
辞書検索など

終電の時間をチェックしたり、レストランを検索したり、あるいは、英和辞典、国語辞典として携帯電話を利用するなど、持ち歩けない情報やすぐに知りたい情報を簡単にインターネットから引き出すことができる。

場所を選ばず、普段の荷物も少なくできるiモード端末で、フットワークが軽くなることは間違いない。



メニューリストから「便利ツール」を選ぶと、辞書検索やNTTドコモ独自の便利なコンテンツリストが表示される。ここで、「駅前探検倶楽部」の「乗り換え案内」を選択。



乗り換え案内の画面で、WWWブラウザと同様に発着駅名と時刻を入力する。ともに選択式ではなく、入力画面での操作が必要。

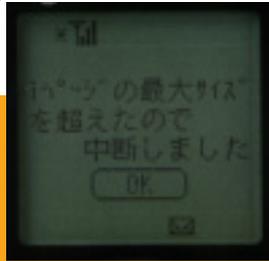


検索結果が表示される。WWWでも人気のサイトが携帯電話で操作できるのはかなり便利だ。ただし、登録地域は今のところ、首都圏、関西、中京地区のみ。

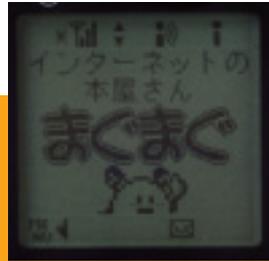
既存のホームページ

専用サイトが  
続々登場

インターネットへの接続により、一般のWWWサイトにアクセスし、そのページをブラウズすることも可能だ。しかし、見られるページには条件がある（後述）ため、そのままの状態で見られるページは数少ない。そこで、既存のサイト情報をもとにして作られた、iモード用のサイトがすでにいくつか用意されている。



既存のサイトをURL指定で読み出そうとしたところ、ページの容量が大きすぎてダウンロードの中断メッセージが表示された。



「まくまく」のiモード用サイトにアクセスした。小さいサイズならばGIF画像もきれいに見られる。



Menu画面の「マイメニュー」には好みの情報サイトを登録できる。中には、マイメニュー登録しないと見られないサイトもある。

【情報サービス / WWW サイト活用法】



- ◎ いつでもどこでもWWWができる。
- △ それなりに料金はかかる(数十円)
- ✂ 普通のページはまず読み込めない。

iモード端末が搭載しているブラウザーは、HTMLのサブセットを理解できるもので、GIFファイルなど一部の画像とテキスト程度の表示能力しか持たない。フレームやテーブルなども非対応で、データ量の多すぎるページに関しても表示ができないなど、制限も多い。一般的

に利用されているページのブラウズは、まず無理と考えておいたほうがいいだろう。

その点、iモード専用で作成されたサイトは、そのブラウザーに最適化された状態でページが作られている。サービスの利用料金をNTTドコモが徴収するシステムも利用できるので、有

料コンテンツに関しては、一般のブラウザーで利用するWWWよりも便利な面もある。

WWWに対する表現力不足の不便さは、いつでもどこでもWWWが利用できる便利さで相殺されるだろう。続々と出てくるであろう新しいサイトに注目したいものだ。

iモード対応コンテンツの作成

JPEGなどの画像ファイルはファイルサイズが大きく、iモード端末では取り込めない。そこで、iモード用のウェブサイト作成にはちょっとした工夫が必要だ。NTTドコモではiモードに対応したウェブサイトの増加がiモード端末の普及も促すとして、対応ウェブサイトの作り方を一般に公開している。iモード用のウェブサイトはHTML 3.2で作成できる。ただし、リンクを押すとすぐに電話をかけられる<a href="tel:...">など一部の独自拡張タグを追加した一方で、利用できないタグもいくつかある。文字はS-JISのみ<sup>A</sup>で、画像は2階調GIFファイル形式であれば、iモード端末で表示できる。1ページのサイズはGIFイメージファイルを含んで2Kバイト以内（ページ構成によっては範囲内でも表示できないことがある）。また、CGIには対応しているが、JavaやJavaScriptには対応していない。

以上の制限を考慮したうえで、iモード用コンテンツを作成してみよう。

詳細（対応HTMLタグ情報）  
<http://www.nttdocomo.co.jp/>

```
<HTML>
<HEAD>
<META http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=SHIFT_JIS">
<TITLE>IMPRESS WATCH Headline i-mode</TITLE>
</HEAD>
<BODY bgcolor="#FFFFFF">
<CENTER>
<HR>
<B><FONT size="+1"><IMG src="title.gif" width="100" height="50"></FONT></B><BR>
<HR>
<FONT size="-2"><B><A name="int"></A>PC Watch<BR>
INTERNET Watch<BR>
窓の社<BR>
AKIBA PC Hotline!</B><BR>
より最新ニュースをお伝えします！</FONT><BR>
<BR>
<B><FONT size="-1">1999/3/4版</FONT></B></CENTER>
<HR>
<A href="tel:03-1234-5678">03-1234-5678</A>お問い合わせ
```



iモード対応版「IMPRESS WATCH」(仮画面)とそのHTMLタグの例

# 携帯電話やPCとやりとりできるメールサービス

もうサブノートPCを持ち歩く必要はない。

インターネットメールと相互乗り入れしたiモードメールサービスは、リアルタイムに新着メールを受信できる。

メールアドレス

**電話番号**  
@docomo.ne.jp

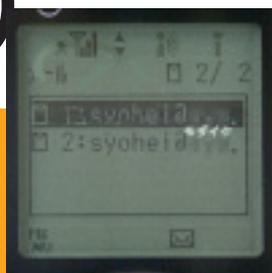
iモードを契約した時点でNTTドコモからは「電話番号@docomo.ne.jp」というインターネットメールアドレスが貸与される。この状態では、メールアドレスを教えることがそのまま電話番号も教えてしまうことになるため、アドレスを教えられる人が限られてしまう。そこで、

NTTドコモでは動作の保証はしていないが、メールアドレスの転送サービスなどを利用する手もある。また、近い将来には別名サービスも提供され、電話番号を公開しなくても、ニックネームなどでメールを受け取れるようになるという。

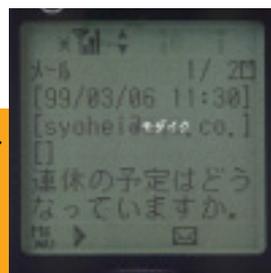
メールの受信

## 文字数制限 250文字

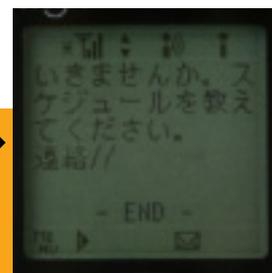
NTTドコモのメールサーバーがメールを受け取ると、即座に、端末に対してメール本文が送られてくる。ほとんどリアルタイムの感覚だ。文字数制限は250文字(漢字ひらがな換算)と、ほとんどのメールはこれで用が足りる。が、ニュースメールなどは、本文頭のパナー広告で終わってしまうなどといったこともある。また、ファイルを添付したメールやHTMLメールなどは受け取れない。



受信したメールのリスト画面。左側の封筒マークは未読を表している。



受信メールリストから1つのメールを選ぶと受信日時と相手のアドレス、本文が表示される。



250文字を超えると本文の最後に「/」が「//」が表示される。このマークで本文すべてが受信されていないことがわかる。

メールの着信通知

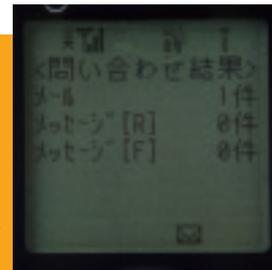
## メールは自動受信

メールは着信次第通知される。圏外にいる時間が長かったり、端末の電源を切っていた場合など、その間に届いたメールの着信をチェックしたいときには、メニューから「セ

ンター問い合わせ」を実行することで、センターの状況を調べ、センターに一時保管されていたメールをその場で手動受信することができる。

注意したいのはHTMLメールや添付ファイル付きのメールなどを受け取るとエラーメールとして差出人に戻される点だ。

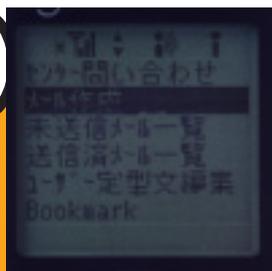
メールの着信をセンターに問い合わせると、その結果が表示される。画面下の封筒マークは未読の受信メールがあることを表している。



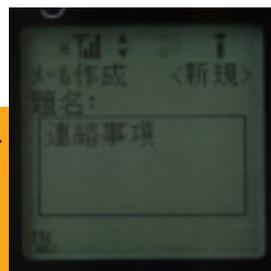
メールの作成

## 定型文を利用できる

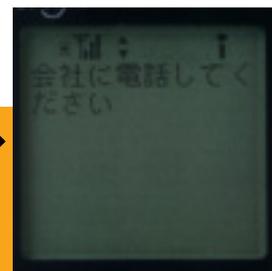
作成できるメールも250文字までだが、この端末で、それだけの長文(?)を作成するのは至難かもしれない。あらかじめ登録されている定型文や、ユーザー定型文を用意しておき、それらをうまく使うのがいい。急ぎのメールの返事はたいていこれで用が足りる。



メールを作成するには、まずMenu画面で「メール作成」を選ぶ。



題名や本文を入力する。入力するには前出のように、iモードボタンを押して入力画面にする。終わったら、もう一度iモードボタンを押してメール作成画面に戻る。

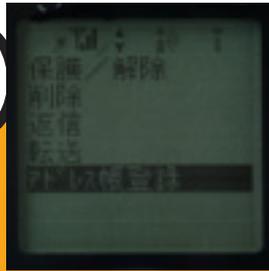


忙しい場合や同じ文章をいつも送信する場合は、定型文を利用する。あらかじめ数種類の定型文が登録されている。写真は一例。自分でも定型文を作成できる。

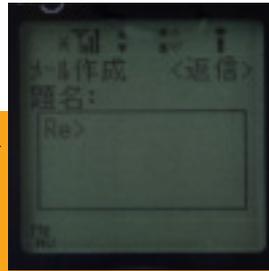
メールの送信

電話帳に  
メールアドレスを登録

電話帳には、インターネットメールアドレスを登録する項目が用意され、それを使って簡単にメールを送信できる。よく使うアドレスを登録しておくほか、自分のウェブページにアドレスを登録しておき、ウェブサイトでワンタッチでメール作成画面を出す手もある。



受信したメールの送信元をアドレス登録しておけば、送信するときにアドレスをいちいち入力する手間が省ける。



返信する場合は、受信したメールの本文を表示した状態で、メニューキーを押して「返信」を選ぶ。すると、題名に「Re>」が付き、返信アドレスが入力される。ただし、メールの本文は引用できない。



メールの本文を入力したら、画面下の「送信」を指定して、iモードキーを押す。すぐにセンターに接続され、メールが送信される。

メールの保存

端末に30通保存可能

端末には30通のメールを保存でき、それを超えて到着したメールは、古い既読メールに上書きされていく(iモードセンターには50通、720時間保存可能)。ただし、未読メールや保護設定済みメールは上書きされないため、とにかくこまめにメールを削除することをおすすめする。端末、センターともに既定のメール数を

超えると、それ以降に届いたメールはエラーとして差出人に戻される。ちなみに、未読メールを削除することができないので、大量のメールを受け取るユーザーは、ちょっと不便を感じるかもしれない。また、今のところPCとの連携機能を持たないため、送受信したメールをPCで保管することはできない。

メールの送受信料金

データ転送量で決定

メールを受け取るのに必要なコストもやりとりされたデータ転送量で決まる。送信と受信とではデータのタイプが異なり、NTTドコモに

よれば、15字程度の本文なら送受信ともに0.9円程度としているが、250文字のメッセージとなると、送信が4.2円、受信が2.1円程度となる。

【メール活用法】



- ◎ 250文字あればほとんどの用件は大丈夫。
- △ メール数に注意。大量のメールには不向き。
- ◇ ファイル添付メールやHTMLメールなどは、エラーが差出人に戻る。

すでにインターネットを利用しているユーザーなら真っ先に考えるのが、既存のメールアカウントのメールをiモード端末に転送することだ。だが、すべてのメールを無条件に転送してしまうのは厳禁だ。添付ファイル付きのメールや、HTMLメール、マルチパートのMIMEといったフォーマットのメールは、NTTドコモのSMTPサーバーが受け取れず、エラーとして差

出人に戻ってしまうからだ。となると、かなり厳密なフィルタリングが必要になるが、一般のプロバイダーを利用している場合にはそれが難しい。ただし、アイフォーが発売した「携帯メールエージェント」(4,800円)やエヌ・エス・ジェーのEmCmサービス(<http://radio.nsj.co.jp/>)がiモード端末へのメール転送を可能にしているため、これらを利用する方法もある。

また、iモード端末は未読のメールを削除できないという仕様のため、数十通のメールをためてしまうと削除するのが大変だ。こうした問題さえクリアできるのなら、届いたその場で内容を読める電子メール端末としては、かなり実用的なものだといえる。そのためだけに入手してもいいくらいだ。

iモードで情報生活を楽しもう

いつでもどこでもメールを読み書きできて、WWWを使った情報サービスも自由自在。いいところだらけのiモードサービスだが、まだまだ課題も多い。文字入力や端末操作のユーザーインターフェイスの改良などは、緊急課題といってもいいだろう。

だが現実には、かつてのポケベルユーザーがPHS

や携帯電話に移行してきて同等の端末を使い、目にも止まらない高速キータッチで、自由自在に文字メッセージをやりとりしているのだから、何がどうなっていくか予想はつかない。

普段使っている解像度の高い端末でのウェブ閲覧に慣れているユーザーには、提供されているサービスの多くはそれほど魅力を感じないかもしれな

い。が、身にまとわれた端末ならではの情報サービスが模索され、それらが主流になってくれば、情報生活に大きな変革が訪れるはずだ。

何しろサービスは始まったばかりである。4000万人とも言われる携帯電話ユーザーの数を考えても、日本のインターネットをiモードが変える可能性は十分にあるといえる。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)